

令和2年度学校評価に係るアンケートのまとめ

1 学校経営

- ・生徒アンケートの項目「私は毎日充実した学校生活を送っている」に対して「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合（以降、割合について記すときはこの2つの回答合計の割合とする）が92.4%、保護者アンケートの同項目も92.3%と共に高い評価を得ており、学校生活全般に対する満足度が高いことがうかがえる。
- ・昨年度課題として挙げられていた「学校は教育活動に必要な保護者あての案内や連絡を適切に行っている」と答えた保護者の割合は昨年度85.0%から89.4%と増加した。一斉休校時の迅速な対応をはじめ、メール配信やホームページの更新など、今年度は情報発信について一定の改善がみられた結果だと考えられる。
- ・行事の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のために変更を余儀なくされることが多かった。感染を防ぐ手立てを講じるとともに、制限の中で生徒の活動する機会の確保を目指した。特筆すべきは、こういった状況下で「LHRや生徒会活動に積極的に取り組んだ」とする生徒が昨年度58.3%から今年度89.3%と大幅に増加していることである。制限された状況の中、生徒自らが主体的に、最善の方法を模索した経験は貴重であり、本校の教育活動の成果といえる。

2 学習指導

- ・生徒アンケート項目「授業内容の説明は、丁寧でわかりやすいものが多い」と答えた者の割合が83.4%など、わかりやすく、興味を持つことのできる授業が多いことがわかる。ICTを活用した授業を推進してきたことが効果を上げているのではないと思われる。
- ・「理解を深めるための体験が取り入れられている」に関しても昨年度65.4%から今年度91.8%と大幅に増加したのは、本校が「学びの変革」発展プロジェクトのモデル校の指定を受けて「主体的・対話的で深い学び」につながるような授業改善を行っている成果と思われる。
- ・保護者からはオンライン授業などさらなるICT教育の充実を要望する声も多く聞かれる。今年度末にはGIGAスクール構想に伴うネット環境の整備を行い、対応していく予定である。
- ・学校関係者の協議では「探究する力の育成、主体的な学びを可能にする授業を行うべきである」という意見もいただいた。進路課・教務課主体で生徒の現状を分析し、社会で必要とされる「課題解決能力」の育成に努めるような授業改善を行っていく。
- ・生徒アンケートにおいて「私は予習（または復習）をするようにしている」の割合が39.2%と昨年度の36.3%から微増したものの、顕著な成果は見られない。現在行われている学習時間調査やスタディ・サポート等のデータを分析して生徒の実態を把握し、効果的な方法を考え具体化していく。

3 生徒指導

- ・生徒アンケートの規律の遵守に関わる項目についてはどれも高い評価である。規範意識の高い生徒が多いことがわかる。
- ・いじめ防止の取組に関しては、生徒・保護者・教職員ともに高い評価であったが、生徒アンケートの「私は悩みや相談事があれば気軽に話せる先生がいる」の割合が58.1%と低かったため、学校関係者評価では「B」とした。
- ・いじめに係るアンケート（年3回）を活用し、丁寧な面談をするなどしていじめの早期発見・早期対応に努め、いじめ対策委員会を随時開いて組織で対応しているが、さらに生徒の様子を注視するとともに、いじめの未然防止等の取組（啓発活動、アンケート等）を一層進めていく。「保健指導」や「進路指導」とも絡めながら多面的なアプローチで生徒理解に努める。

4 進路指導

- ・生徒アンケートの項目「学校では進路に関する情報が提供されている」の割合が87.6%となっているものの、保護者アンケートの項目「学校は就職や進学に関する進路情報を十分に提供している」では、70.0%と低くなっている。さらに、保護者アンケートのコメントでも進路情報が十分に提供されていないという意見が数件寄せられた。
- ・生徒に対しては、LHR、総合的な探究の時間等で、進路に関する意識付けや発達段階に応じた情報提供に一層努めていく。
- ・保護者に対する情報提供の機会を増やし、三者懇談、保護者進路説明会、HP等で十分に情報が伝わるよう工夫していく。

5 特別活動等

- ・部活動については、生徒の73.2%、保護者の82.7%が「熱心に取り組んでいる」と回答している。
- ・自己評価が「B」であったのは、部活動の大会開催延期・中止などが影響しているものと考えられる。
- ・練習と休養のバランスを取りながら、また、家庭学習時間の確保も念頭に置きつつ、生徒がより高い目標をもって主体的・意欲的に取り組めるよう効果的な指導・支援の在り方を模索し、改善

につなげていく。

6 学校図書館

- ・生徒アンケートの項目「図書館を利用したことがある」は57.8%と低い。
- ・図書委員による読書週間の呼びかけや図書館を活用した探究的な授業の展開、ビブリオバトルや朝読書を充実させるとともに、図書館主催のワークショップ「ブックカバーづくり」など魅力的な催しを企画するなどの取組を継続・充実させていく。

7 保健指導

- ・生徒アンケートの項目「先生は心身に不調を生じた際は、親身になって対応してくれる」とする割合が、年々増加しており、今年度は83.2%となっている。
- ・支援の必要な生徒について、保健室と学年が連携して、丁寧に対応してきた結果が徐々に出てきている。
- ・個別対応が必要な生徒については、保護者や相談機関、医療機関との連携を深め、組織全体で支援していく。

8 人権教育

- ・生徒アンケートにおける人権教育に関する項目については、「人権学習を通じて人権尊重の意識が高まった」「人権学習について熱心に取り組んでいると思う」の割合が9割を超えるなど、高い評価である。講演会やフィールドワークなど豊かな深い学びを全職員で支え、実践している。
- ・本校は、昨年度まで「道德教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を受けていたが、国の事業自体が中止となった。しかし、今後もこれまでに培った手法を生かしながら人権教育に関する取組を継続していく。

9 環境教育

- ・「清掃活動」に関する項目は9割の生徒がしっかり取り組んでいる、と答えている。
- ・総合的な探究の時間等を利用しながら清掃活動にとどまらない「環境教育」に取り組む。

10 事務・管理

- ・施設の老朽化が激しく改修の必要な箇所が多いものの、順次改修や修繕が進んでいる。
- ・保護者アンケートのコメントにも散見された「トイレの改修」の要望であるが、来年度に生徒用トイレの全面改修（本館・新館）を予定している。

11 その他学校の取組

- ・地域や大学との連携を深め、さらに特色ある「開かれた学校づくり」を目指す。
- ・来年度はコミュニティ・スクールの導入を予定している。より効果的な地域協働の取組を進めていく。